

## そばに置きたい



## 民芸品あしらった茶ふきん



立秋が過ぎましたが、暑い日が続きますね。今回紹介するのは茶ふきんですが、もちろん汗をふく手ぬぐいとしても使えます。

岩手県紫波町で染物屋を営む小田中耕一さんが、「型染め」という手法で染めています。

型染めは、型紙を用いた染色技法で、文字や模様に切った型紙を使い、生地に染料をすり込ませて染めます。茶ふき人には、焼き物など民芸品の「小間絵」と呼ばれる挿絵があしらわれています。藍、緑、渋黄、緋、ねずみの5色で、型紙は小田中さんが切り、生地は愛知県の知多半島のみらいしを使っています。

小田中耕一さんの茶ふきん  
縦35センチ、横45センチ。5色セツ  
トで税抜き3,500円。問い  
合わせは久野さんが関わる民  
芸店「手しごと」(電話03・6  
432・3867、火曜定休)

外山亮一撮影

小田中さんの家は、祭事で使う法被やのぼりなどを代々染めてきた老舗の染物屋で、小田中さんは3代目。家業を継いだ20代のとき、染色工芸家の故・芹沢銈介氏に弟子入りしました。

芹沢氏は沖繩の伝統的な染色技法である「紅型」をもとに独自の型染めである「型絵染」を生み出した作家で、人間国宝にもなりました。小田中さんは芹沢氏のもとで約10年間修業し、職人としての技を磨きました。その芹沢氏は小田中さんの技術を大変評価していました。

私は小田中さんと出会って30年ほどになります。こちらが具体的な案を出して依頼すると、すばらしいデザインのものを作製してくれます。職人として優れた技を持っている人です。

(手仕事フォーラム代表)  
久野恵一